

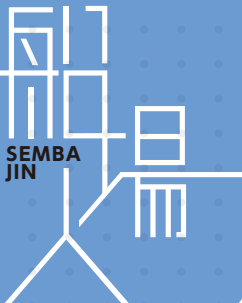
今日からあなたも

**SEMBA
JIN**

船場ガイドブック 2018



船場倶楽部
SEMBA CLUB



今日からあなたも船場人 船場ガイドブック 2018

目次

- ようこそ 船場へ1
- 船場の不思議2
- 船場MAP11
- 船場まちづくりの歩み13
- 船場生活手帳15
- 協賛広告17

ようこそ船場へ

船場は、大阪の歴史的な中心部にあり
太閤さんによってつくられた、古くて新しいまちです。
今も格子状の街路をそのままに
まちのそこそこに歴史が語りかける物語や
思いがけない多様なまちの営みを発見できます。
そんな船場を知ってもらえることを願って私たちは
毎年新たな気持ちでこのガイドブックをつくっています。
今年も、船場で住み、働き、遊ぶ私たちが
取材をしてくれたガイドブックを
お届けすることができました。
これを手にして、まちに足を運んでいただき
まちの魅力や楽しさを肌で感じていただければ
私たちはとてもうれしく思います。
さあ、「今日からあなたも船場人」。
皆さんとご一緒に
まちへ出かけてみることにしましょう。

船場倶楽部
愛日地域活動協議会

船場とはどんなまち

船場の位置と特徴

船場は、北は土佐堀川、東は東横堀川、南は旧長堀川（現長堀通）、西は旧西横堀川（現阪神高速道路）に囲まれた南北2.1km、東西1.1kmの約230haの区域をいいます。
港から、大阪城に向かって、船場のまちは東西の「通」を軸として発展、これに南北の「筋」が交わる格子状のまちがつくられ、今もまち割りが残っています。
明治以降、堺筋や御堂筋等の整備により、人の流れは南北の「筋」が中心となりました。通りや筋の沿道には、現在も数多くの近代建築はじめ歴史的な建物があり、まちの変化を見ることができます。

船場400年のあらし

船場は、豊臣秀吉による大坂城築城に合わせ、西側の砂州の埋め立てで生まれたまちです。
大坂夏の陣、明治維新、太平洋戦争と、船場は幾度も壊滅的被害を受けましたが、その度に新たな人びとを惹きつけて蘇り、かつての伝統と融合して新しい時代の船場の魅力を創りだしてきました。

水運の拠点から商都へ

江戸幕府直轄地後、更に埋め立ては拡大され、船場は水運の拠点となり、全国から人と富と情報を集積、大坂が城下町から経済都市に変容します。船場では金融・薬・繊維・輸入雑貨など多くの問屋が繁栄します。

商都大坂の中心から町人文化の発信

この間、近松門左衛門に代表される文芸・芸能をはじめ、多くの町人学者を輩出した懐徳堂など、なにわ商人の誇りある町人文化が育まれ、継承されました。

近代化による大大阪へ

明治維新により、大阪の経済的基盤は壊滅的打撃を受けますが、その後急速に工業都市化し発展。大正期には「大大阪」と呼ばれる時代を迎え、モダンで最新の都市文化スタイルを創造しています。

新しい都心の魅力を求めて

戦後の復興を支えてきた船場も、1970年代からの繊維不況や産業構造の変化で、かつての賑わいを失っていききました。戦前には約6万人あった人口も、一時約4千人まで減りましたが、2015年以降、約1万人を超えるまでに回復してきました。昼間は約20万人が集中する業務都心に変わりありませんが、商業・業務機能の中心がキタとミナミへ集中するなかで、新しい都心船場の魅力が生まれつつあります。



船場の位置



幕末から明治の大阪・船場（明治5年）

船場の不思議

特集

船場を歩けば不思議に出会う

船場を歩いているとき、ふっと不思議なものが目にとまることがありませんか？
そこで今回、私たちがなぜ？と感じたことの謎解き取材をしました。
とはいえ、長い歴史のある船場、まだまだ不思議は隠れているはず。
皆さんもぜひ日頃とは少し違う目で、いろんな「なぜ？」を探してみてください。

虎は死して皮を残し ビルは後世に柱を残す

「柱」とは言うまでもなく、地面や土台に垂直に立て、建物の屋根や梁・床などを支えるためのもの。ところが船場を歩くと、この本来の役割を果たしていない柱が幾つも見つかります。これは一体、何を意味しているのでしょうか？

塩野義製薬本社ビル 道修町3丁目 map 5

薬のまち・道修町に、正面の6本の高い柱と公開空地に立つ6本の並木がとてもクールな、塩野義製薬本社ビル（道修町3-1-8）があります。ところが、玄関のすぐ右側に目をやると、何やら古びた石碑のようなものが…。実はこれ、同社の旧社屋の柱の一部を残したものだ。いかにも時代を経た石の質感と「塩野義製薬株式会社」と刻まれた銅板が、この製薬会社の長い歴史を静かに物語っているように思えます。



塩野義製薬本社ビル正面玄関石柱

大正13年・道修町初の洋館社屋

1878年（明治11）に道修町で創業した同社は、1924年（大正13）、現在の場所に社屋を建設しました（設計：橋本勉／茂・野村建築事務所）。木造家屋に暖簾をかけた店が軒を連ねていた道修町の真ん中に、初めてできた洋館社屋だったそうです。関東大震災（1923年9月）の直後だったため、当時の2代塩野義三郎社長の指示で耐震・耐火に重点を置いた一方、温水式暖房など当時の最新設備も採用されていました。社史『シオノギ百年』には、「玄関ドアの上部にはステンドグラスがはめ込まれ、ふくらみを帯びた外壁の石柱、石材（花崗岩）部の装飾彫刻など、近世ルネサンス様式の瀟洒な洋館は当時の人々の目を見はらせ、話題は話題を呼び、塩野義の進歩的な歩みが道修町に新風を吹き込んだ」と誇らしげに記されています。



旧塩野義製薬本社ビル（『シオノギ百年』より）

平成5年・伝統を引き継ぐ新社屋

それから約70年の時を経た1993年(平成5)、現在の本社ビルが竣工しました。設計を手掛けた坂倉建築研究所のウェブサイトには「ルネサンス様式の旧社屋のイメージを各所に残しながら、全体をシンプルかつモダンにまとめた。建物を道路から後退させて設けた広場と2層のピロティ、エントランスホールを一体化させ、奥行きと広がりを作り出している」とあります。そういえば、正面の6本の柱にもそのコンセプトが見て取れます。

また、竣工当時の社内報によると、この新社屋は「塩野義の伝統と企業としての格調をイメージしており、旧社屋のステンドグラスの玄関や石柱の装飾彫刻をモニュメントとして残しつつ、塩野義の新しい時代に対応する諸機能を備えている」とのこと。それが、旧い柱の一部をここに残した経緯だったのです。

なお、社内報にもう1つ書かれている「ステンドグラスの玄関も、現在の社屋3階のエレベーターホール壁面に、そっくりそのまま残されています。

さらに古い柱を発見！

話はここでは終わりません。さらに、同社隣にあるK.シオノビルに入って、思わずびっくり。すっきりしたエントランスホールの正面で、威圧的なほどの存在感を示しているのは、「遺された時-瑞禾-」(作者：江口 遇)と名付けられたきつとした芸術作品。「この地に建てられていた和漢薬種商 塩野屋吉兵衛 居宅の檜材の大黒柱 松材の梁を用いて制作したものである(嘉永5年5月(1852)上棟平成元年5月(1989)解体)」。つまり、ビル建築以前にあった塩野屋吉兵衛居宅を何とか一部でも残したいと考えて、嘉永時代の立派な大黒柱と梁を再利用し、このオブジェが制作されたというわけなのです。

南船場ハートビル 南船場2丁目 map 18

次なる不思議は、みずほ銀行南船場支店が1階に入る南船場ハートビル(南船場2-3-2)のエントランス前の公開空地に、すくくと立つ2本の柱。堺筋を歩いていて、突如この巨大な物体に遭遇したときの衝撃はいかばかりでしょう。でもよく見ると、このギリシャ建築独特のコリント式の頭柱には、どこかで見覚えがあるような気がします。足元のプレートには「この二本の石柱は、旧第一勧業銀行高麗橋支店の正面玄関にあったもので、代表的な銀行建築の一部としてここに移設保存するものです。平成6年9月移設 平成14年4月1日 株式会社みずほ銀行」とあります。

ご記憶の方もおられるかも知れませんが、旧第一勧業銀行高麗橋支店は現在の高麗橋3丁目にあり、ピロティ式になった正面玄関の3階まで届く巨大な柱が特徴の、威風堂々たる建物でした(1926年[大正15]築/設計：西村好時/鉄筋コンクリート造・地上4階地下1階)。現在残された柱は、元の高さの半分もないように見えますが、もし当時のまま移設されていたら、堺筋の景色は変わっていたかもしれませんね。



3階エレベーターホール壁面



K.シオノビル エントランスホール



南船場ハートビル 公開空地

りそな本店ビル 備後町2丁目 map 11

そこから堺筋を北へ歩くこと約1km、広い公開空地に銀色に輝く大きなオブジェを設置した、りそな本店ビル(備後町2-2-1)があります。でも不思議なのはそのオブジェではありません。ビル裏側(西側)の広場のど真ん中に、どっしりと据えられた2本の柱です。柱というよりも、花壇に植えた大木の切り株のようにも見えます。ご承知のように、ここはりそな銀行が前身の大和銀行時代から本店を構えていたところ。そこからさらに時代を遡り、大和銀行が旧商号の大阪野村銀行だった1924年(大正13)、ここに本店として堺筋野村ビルディング(旧館設計：片岡安/後にできた新館の設計：安井武雄)を建てました。戦後の財閥解体に伴って大和銀行となっても、ここに本店を置き続けてきましたが、1991年(平成3)に旧建物を取り壊し、跡地に「大和銀行本店ビル」(当時の名称)を建てました。この柱はその際、由緒ある旧堺筋野村ビルの一部を残すため、ここに移設されたということです。

大日本住友製薬大阪本社 道修町2丁目 map 6

最後は、大日本住友製薬大阪本社(道修町2-6-8)。道修町の歩道から前栽越しに、ライオンの顔のようなものがチラリと見えます。ちょっと失礼して玄関脇まで入らせていただくと、地下1階にテラコッタ製のレリーフ装飾が施され、テーブルやイスを並べた美しいドライエリアが眼下に広がります。お聞きしたところ、この装飾はもともと、1930年(昭和5)、この場所に旧大日本製薬本社ビル(設計：宗建築事務所)を建てた際に設置されたものだといいます。そして、1987年(昭和62)に現在の社屋を増築した際、90周年事業(旧大阪製薬は1897年[明治30]設立)の一環として、旧社屋のライオン像と窓枠、付柱を移設し、地下の食堂につながるドライエリアの壁のモニュメントとして再現したのだそうです。とはいえ、通りからは全容が見えないので、社員さんと同社を訪れるお客様限定の、贅沢な装飾といえます。なお、同じライオンのテラコッタが、住宅関連のLIXILグループが運営するINAXライブミュージアム「建築陶器の博物館」のテラコッタパークに一部寄贈・展示されているそうです。

柱に託した創業の想い

では結局、なぜ旧い建物の柱の部分だけが、文字通り「取って付けたような」飾りとして残されてきたのでしょうか。塩野義製薬の社内報に、企業の伝統や格調といったキーワードはありますが、柱だけが残された理由としては完全には合点がいきません。

広辞苑で「柱」の意味を調べると、比喩として「たよりとなる人、根幹となるもの。神・霊または高貴の人を数えるのに用いる語」とあります。古来「柱には神が宿る」と人々は信じ、一家の長を大黒柱と呼ぶほど、柱には特別な思いがあったようです。また、「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」という諺もあります。虎が死んだ後に美しい皮を残すように、人は死んだ後に名前を残すような生き方をすべきだという教えだそうですが、ビルを建て替えるときに柱を残したのも、永続する企業ならではの歴史や伝統、創業者の想いなどを、建物の中でも特別な意味を持つ柱に託して、後世に伝えていくためだったのではないのでしょうか。



西側広場



旧大日本製薬本社ビル



ドライエリアの壁

ふところの深い船場の神様

淡路町4丁目 map 10



中井エンジニアリング社屋正面

神社?いいえ、会社です

大阪メトロ本町駅から御堂筋を北へと歩き、北御堂(浄土真宗本願寺派 本願寺津村別院/本町4-1-3)の前を過ぎたところで備後町通を西へ。そして、2筋目の角を右に曲がって再び北へ進むと、百数十m先の道路の突き当りに、いきなり鳥居が現れます。初めて来た人は、オフィス街の真ん中で、急に道に迷ったような錯覚に陥るかも知れません。

高さ4m、幅5.5mの鳥居が鎮座するのは神社ではなく、ガス設備の工事などを専門とする中井エンジニアリングという会社(淡路町4-4-15)の正面玄関です。調べてみると、この鳥居は、北船場の守り神である御霊神社(淡路町4-4-3)の境内が、かつてはここまであった名残りだといいます。そういえば、今の神社は平野町に近いのに、所在地が淡路町になっているのも、何だか不思議ですね。

船場商人の心意気

そこで、御霊神社の園文夫宮司にお話を伺いました。

明治維新までは、御霊神社の敷地は現在地のずっと南にまで広がっていました。当時は神仏習合の時代で、神社に付属する「神宮寺」として、「寶城寺」が御霊神社に併設されていました。ところが、1868年(明治1)に、新政府が神仏分離令を発布したことにより、寶城寺も例外にはならず住吉区に移設されたため、お寺の敷地がすっぽり空いてしまいました。それから16年を経た1885年(明治17)、園宮司の曾祖父が呼びかけて、船場商人たちの寄付によって、この鳥居が建立されたとのことです。

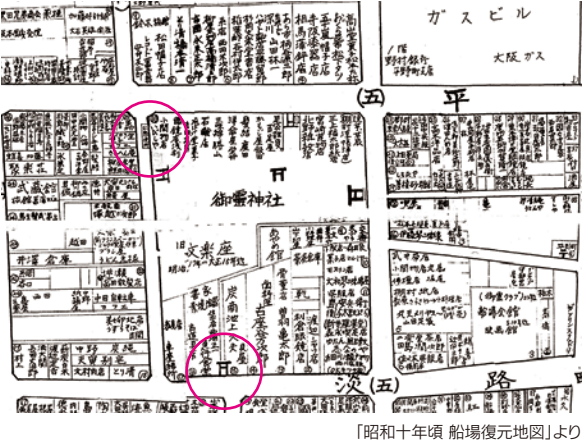
身近に鳥居のある心境は？

では、毎日のように鳥居をくぐって通勤している会社の皆さんは、どう感じておられるのでしょうか。中井エンジニアリングの取締役の藤井英樹さんと、総務課長の吉田準さんにお聞きしました。「社屋ができた1974年(昭和49)から今日まで、社を護ってくれているありがたい存在」とお2人は言います。1995年(平成7)の阪神淡路大震災のときに鳥居の笠木がずれた際には、同社が自主的に全面修繕を行なったとのことです。最近では、この鳥居周辺が、かの有名なスマホ向け位置情報ゲームのスポットの1つにもなり、また、会社の向かいにある人気のパン屋「バンデュー」を訪れた人たちが、珍しそうに鳥居の写真を撮るなど、ちょっとした話題を生む存在になっています。

この鳥居が建立された理由を示す証拠の1つとして、柱の社屋側の面に、建立年と寄付金出資者と思われる人たちの名前が刻まれています。当時のこの境界の隆盛ぶりや、神宮寺を含めた御霊神社が地域の人たちにいかに愛され、親しまれていたかをわかり知ることができます。



鳥居裏側



「昭和十年頃 船場復元地図」より

道路上になぜトイレが？

淡路町4丁目 map 9

現在の御霊神社の西側、しかも道路上に、なぜか公衆トイレの建物がボツンとあります。

またまた御霊神社の園宮司にお聞きすると、神社の北側には当時、天神橋筋や心斎橋筋などとともに五大商店街の1つとして非常に賑わった平野町商店街があったそうです。多くの人が集まる場所には、昔も今もトイレの設置は必須。1929年(昭和4)、ここに公衆トイレがつくられたという記録があり、費用は地域の寄付で賄ったと伝えられています。私設だったトイレも今は大阪市環境局の管轄となり、タクシードライバーの皆さんをはじめ、地域の人たちに重宝されているようです。

なぜここに「千成瓢箪」?! 平野町4丁目 map 8

前述の平野町商店街があった平野町通は、大阪城から真っすぐ西へ、船場の中心を貫く主要な道路でした。1929年(昭和4)12月、御霊神社を中心とする同商店街に「千成瓢箪型街路灯」が設置されました。太閤さんゆかりの千成瓢箪のデザインは、住民のたつての希望。以来この界隈は「最も夜の遅いまち、最も明るいまち、最も歩くに良いまち」といわれる活気あふれるまちになりました。昼はもちろん、夜店も大阪随一の繁華を誇り、「平ぶら」という言葉も生まれるほど多くの人々が買い物やそぞろ歩きを楽しんだようです。その隆盛のシンボルが、道路を明るく灯す千成瓢箪型の街路灯であったことが垣間見られる史料も残っています。



1935年(昭和10)頃の平野町商店街



千成瓢箪の街路灯のモニュメント

一家を守りぬいた地下空間

伏見町2丁目 map **3**



宗田家正面

生まれ変わった古い町家

昔ながらの町家の佇まいをそのままに、伏見町通に面して建つ「宗田家住宅」。木造2階建てでありながら、はす向かいに並んで建つ近代建築で有形登録文化財の伏見ビル・青山ビルに勝るとも劣らぬ存在感を示しています。宗田家は、享保年間に前より大阪の道修町で薬種商を営んできましたが、1908年(明治41)、医療用ゴム製品などを取り扱う会社を興した宗田治三郎が、1925年(大正14)にこの地に新しく居を構えました。それから90余年、老朽化が目立っていた町家は「船場地区HOPEゾーン事業」の最終年度・最終物件として修景がなされ、ガラス製品のショールームに生まれ変わりました。



防空壕のある座敷とギャラリーの蔵

座敷の真ん中に防空壕

今では珍しい瓦屋根のついた門をくぐると、典型的な日本家屋の中に、サイズもデザインもとりどりの、美しいガラス容器が無数に飾られた別世界が眼前に広がります。ところが驚いたことに、1階の座敷の真ん中に、なんと畳半分ほどの地下壕があります。なんでも、ここにはもともと火事などの災害や盗難に備えて、ちょうど布団を敷く場所の床下に、貴重品を保管するための倉庫をつくっていたのだとか。しかし、それが最も宗田家の人々の役に立つことになるのは、建築から約20年後のことでした。太平洋戦争で日本の劣勢が伝えられる中、1945年(昭和20)3月13日の大空襲を皮切りに、大阪の中心部は数十回にわたる空襲に見舞われます。空襲警報のサイレンが鳴ると、まちの人々は一斉に近くの防空壕に逃げ込むしか身を守る方法はありませんでした。このとき宗田家では、

治三郎の部屋の床下の倉庫を深さ約2m50cmまで掘り下げて掘げ、一家全員が避難できる防空壕に改造していたのです。運よく、船場の中でも土佐堀川から淡路町あたりの一帯は爆弾の直撃を免れ、宗田家も燃えることはありませんでした。こうして、家の財産を守るためにつくった倉庫が、戦時下では人の命を守るための防空壕として活躍し、戦後は再び地下倉庫として宗田家の人々の暮らしを長きにわたって支えつづけてきたという歴史を、この地下壕は物語っているといえるでしょう。



防空壕の入口



ガラスびんの照明



土間の上のステンドグラス



柱の継ぎ手

昔の商家に新たな輝きを

2018年7月初めにオープンしたここ「CuteGlass Shop and Gallery」は、日本精工硝子株式会社(本社・大阪市北区)が運営するガラス瓶の専門店＆ショールーム。同社は多種多様なガラス容器の企画・製造・販売などを手掛けるメーカーで、1895年(明治28)の創業以来、大手化粧品会社の製品の瓶や、食品・酒類・医薬品の容器など、企業を顧客として事業を展開してきました。近年になり、透明度が高く意匠も凝った同社のオリジナル製品を一般消費者にもぜひ見てもらいたいと、よい場所を探していたところ、折よく社長の親戚筋にあたる宗田家の承諾を得ることができ、この住宅を改修して出店が実現しました。

修景の際に建築時(1925年)の図面が発見されたため、すでになくなっていた表の格子なども細部まで忠実に建築当時の姿に復元。また、部屋の間取りは当時のまま、玄関から奥へつづく土間は敷石ごと残し、柱や梁、階段も元のをいかしつつ、ガラス製品メーカーならではの装飾や採光にも工夫を凝らしています。



懐かしい丸薬や目薬瓶

大阪市内で防空壕が現存する例は、恐らく宗田家住宅以外はないだろうと言われています。秘密の防空壕のカバーは、今や半分の畳から丈夫なガラス板に代わり、広い内部はガラス素材を使った透明の装飾で満たされ、部屋全体に優しい光を添えています。



ハエ取り器(左端)とビール瓶



CuteGlass Shop and Gallery
541-0044 大阪市中央区伏見町2-4-4
TEL 06-6226-8360 FAX 06-6226-8370
https://www.cg-shopandgallery.jp/



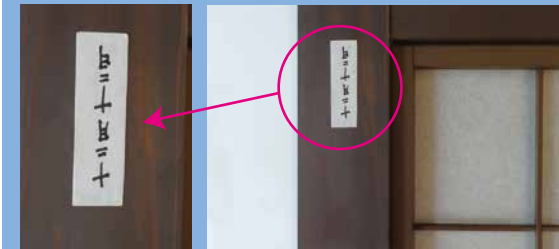
化粧品の瓶(左写真)とウランガラス瓶

※HOPEゾーン事業とは
歴史的・文化的な雰囲気やまちなみなどに恵まれた地域を対象に、市民と連携・協働して様々なまちづくり活動を行う大阪市の「HOPEゾーン事業」の一環。2008年度から2017年度にかけて、地元を中心とする「船場地区HOPEゾーン協議会」が、まちなみ修景など、船場ならではの魅力を活かしたまちづくりに取り組んできた。

H O P E ゾーン
船場

逆さ札

ちょっと目を凝らして探してみよう。船場の家やお店(たな)の玄関の柱などに、逆さの字を書いて貼り付けた札が目に残るかも。何やこれ!? 商家に昔から伝わるセキュリティ(安全祈願)対策で、「逆さ札」と呼ばれるもの。あの大泥棒・石川五右衛門が釜茹での刑にされた日である「十二月十二日」とお札に書いて、逆さに貼れば泥棒が入らないというオマジナイだそう。屋根裏から逆さまに侵入してくる泥棒が見やすいよう逆さまに貼れば、安全対策も万全?



神宗の店先で map **1**

ビル角で演奏するMr.ベースマン

南船場2丁目 map **16**

南船場のこのビルの外観は、まるで寄木細工の箱のよう。タイル貼りの造形がとても楽しい。しかも、ビルの角からは、なぜかベースをつま弾く木彫がによつきり。ここは1992年(平成4)の大阪建築コンクールで渡辺節賞をとった三和住宅BSビル(設計：坂田基慎)。さらに、入口を入った途端、これまた椅子に腰かけた今にも動き出しそうな彫刻のオジサンが迎えてくれるという凝りに凝ったアートなビル。



ハウスインハウス 蔵の窓から微笑む美女

高麗橋3丁目 map **1**

船場の伝統的商家をビルの中に再現

広々とした公開空地の真ん中に建つ高層ビルの足元、ガラス越しに白壁の町家が収まっています。よく見ると、蔵の小さな窓から浄瑠璃人形が顔を出し、美女がにっこりほほ笑む。ここはナンダ? この町家は、かつての船場の商家を再現したもので、塩昆布や鯉昆布を商う「神宗」(かんそう)の淀屋橋本店。1781年(天明1)に海鮮物問屋として創業した老舗です。取材時(6月)は翌月の天神祭の飾りつけで、提灯や垂れ幕でにぎにぎしい。いつもは蔵の窓から微笑む美女も、この日はお忙しくて留守?



ガラス内に収まった町家

こんなお店にした訳は

神宗の前社長の尾寄彰廣さんにお聞きしました(名刺の肩書きは「隠居」)。「もともと創業の地は本町御。京町堀の店が焼けて船場の北久宝寺町へ。そこから船場の中心部に店を移すに当たって、セキュリティからビル内の店舗を探していたところ、ビルオーナーが持て余すほど1階の空間が大きいこのビルからお誘いがありました。それならと町家をそっくり入れるお店にしようところを選びました(2004年(平成16))」。「2つの商家が、船場の通りを挟んで向かい合わせに並んだ伝統的な両側町をイメージしています。初めは外からこの真ん中の通りに直接入る入口も考えましたが、風の巻き込み対策からそれを止めて、今の形にしました」。今、この店の入口はビルのエントランスホールにあります。まちに雰囲気を感じ出すため、夜もショールームになるよう障子を使って行灯の明かりをともし、風情を演出されているそうです。



蔵の窓からお染さん、今日はお休み?



天神祭のしつらえが店を飾る

なんでお染さんがここに

「店のバックヤード(倉庫部分など)を隠すため蔵で壁をつくりました。蔵の窓から顔を出すのは、『お染久松』のお染さんです。『お染久松 蔵のなか』というセリフが浄瑠璃にあることから思いついたのです」。さて、隠居の尾寄さんは、集英小・船場中学の船場育ちで船場に愛着が強く、また、たいへん浄瑠璃に造詣が深く、関係する本を幾冊も出版しておられます。「まちには落語家や浄瑠璃の太夫など芸さんが普通に住んでいました。店にもよくこうした芸人さんがやってきたので、自然と生活の中に文化が入りこんで、船場の旦那衆も、浄瑠璃をはじめ趣味として芸能文化をたしなみました。『お染久松』は、なかでも人気の出し物でした」。いつもはにっこりお染さん



いつもはにっこりお染さん

蔦もびっくり 青山ビル不思議

伏見町2丁目 map 4



取材時、美装化後の8月

平成29年度「美装化事業」

蔦にびっしり覆われた風格ある姿が魅力の青山ビル(登録有形文化財)が、ここ最近、どことなく若返ったように見えることにお気づきでしょうか？それというのも、文化庁の平成29年度「美しい日本探訪のための文化財建造物魅力向上促進事業*」(長いので、通称「美装化事業」)の一環として、2017年末から数箇月かけて、外壁の塗装工事が行なわれたからです。でも、美装化ビフォー・アフターの写真を見比べると、不思議なことが1つあります。いくら蔦がトレードマークとはいえ、まさか、生い茂った葉や茎の上からペンキを塗るわけにはいきません。当然、蔦はすべて取り外さなければならなかったはずですが、ところが、工事が終わってまだ日も浅いというのに(取材は2018年8月中旬)、やや、散髪したての雰囲気はあるものの、蔦は以前と変わらず、建物の上部までしっかり伸びています。これは一体なぜでしょう？この真相を探るべく、同ビルの持ち主の青山正美さん、敬子さん、修司さんを訪ねました。



美装化前の2017年夏



工事直前



工事完了の2018年3月頃



同5月

蔦の不思議な習性とは

答えはいって簡単でした。「普通は、蔦があっても改修の際に根元から剪定してしまうことが多いですが、一から蔦を植え直しては、壁面を覆うようになるまで何年もかかります。ですから私どもは、蔦をそっと壁から剥がし、塗装工事をした後、そっくりそのまま貼りつけ直したのです」。

なんでも、蔓(つる)植物である蔦にもいろいろな種類があり、このビルの夏蔦は葉が青々と茂って元気なときは、茎についている吸盤で、石にでも壁にでもしっかりとしがみついています。冬場になると枯れて葉を落とし眠ってしまうため、吸盤の粘着力も弱まるのだそうです。人間に例えると、ちょうど全身麻酔にかかっているような状態なので、このときだけは吸盤を剥がしても、蔦の生命に影響は出ないのです。

「季節を見極めながら工事を進め、蔦が眠りから覚める前に、何が何でも元に戻さなければならなかったんで、まさに時間との闘いでした」。そのため、11月から12月に蔦が眠った隙を狙って壁から外し、1月から2月で壁を塗り替え、2月末には蔦を原状復帰させるという緻密なスケジュールが組まれました。



蔦の復旧準備



復旧中

寝ている間のお引越し Part I

ここで、さらなる疑問が湧いてきます。蔦は縦横無尽に絡みあうように、壁一杯に広がっています。デリケートなレース生地のようなものを、どうやって剥がしたり、再び貼りつけたりできたのが不思議でなりません。

その離れ業を可能にしたのは、日本に数人しかいないといわれるロープアクセスのできる植木職人と、そのお弟子さんたちでした。一言でいえば、大きな足場やゴンドラ、重機などが使えない限られた条件の現場で、ロープを移動手段と命綱にして、植木や樹木などの剪定・メンテナンスを行う特殊技術の持ち主です。

職人さんたちは、足場から垂らした複数のロープを巧みに操り、宙吊りのまま壁の前を移動したり器用に体勢を変えたりしながら、熟睡中の蔦を少しずつ剥がしては、壁の近くに仮の寝床として組んだ足場に掛ける、という作業を繰り返していきました。ただし、片手はロープを握っているため、全ての作業はもう片方の手だけで行なわなければなりません。

このように、レスキュー隊が行なうような本格的なロープワークと、特殊技術による植木のメンテナンスの両方ができる熟練職人は、先述の通り、非常に稀有な存在です。それが証拠に、有名な神社仏閣やお城、滝やダム、超高層ビルなどの仕事で、日本各地へ引っ張りだこの毎日だとか。因みに、青山ビルの敷地内には、背中合わせに建つ少彦名神社の大きな楠の兄弟木があります。狭いビルの谷間にそそり立つこの大木の手入れも、この職人さんが手掛けているそうです。



移設開始



職人さんのロープワーク

寝ている間のお引越し Part II

こうして、蔦の仮の寝床への引っ越しは無事に終わり、続く壁面の塗り替えは、寒空の下、順調に進められていきました。

そしていよいよ、蔦が目覚めます前に、改装なった新居に戻すという最後の工程に入ります。足場に元のままの形で休ませているとはいえ、本人(蔦)はだらしなく眠ったまま。吸盤の粘着力も弱っているため、湿布葉のようにペタッと一気に壁に貼りつけられるというほど甘い作業ではありません。ここでも専門の植木職人ならではの技術がものを言いました。

細い茎は目覚めとともに自然と壁に吸い付きませんが、問題は太い幹の部分。寝ぼけ眼では自分の重さを支えられないため、独り立ちできるようになるまでしばらくの間、補助が必要です。職人さんたちは、ビルの凹凸にも合わせて元の形を忠実に再現しながら、支えとなるワイヤーに、蔦の幹を麻ひもで何箇所も何箇所も、丁寧に固定していきます。このときも、片手はロープで体を支え、片手で全ての道具を操るという超高難度の作業であったことは言うまでもありません。

また、後でひもを調整するのは難しいので、あらかじめ幹の成長を見込んで、ゆとりをもって結ぶのがポイント。しかも、蔦が自力で壁面に貼りつくころには、幹が太くなってひもが自然にほどけて落ちるよう、適度なゆるみまで計算に入れています。そして、麻を使う理由は、地面に落ちてもやがて土に戻るから。



蔦とともにステンドグラスもすっきり



麻ひもで養生

地域の景観を守るため

修司さんは言います。「もちろん、蔦を剪定してしまう方が、工事にかかる時間も費用もはるかに少なくて済みます。でも、私どもは『蔦のビル』として船場のランドマークの1つにもなっているので、まちの景観を変えてはいけなという思いがありました。実は、最初の持ち主である野田源次郎が、1921年(大正10)に個人宅としてこのビルを建てたときから、蔦はあったそうです。現在の蔦は2代目で、1947年(昭和22)に祖父の青山喜一が野田家からこのビルを譲り受けたあと、昭和の中ごろに元の蔦が枯れてしまったため、喜一が甲子園球場から株分けしてもらって植えたものなので、どうしても残したかったのです。結果として、まず蔦を残すことありきの塗装工事となりましたが、お陰さまで文化庁から、地域の観光資源として美装化事業の支援を受けることができました」。

1日も早いご快癒を

かくして、青山ビルに半世紀以上にわたって棲み続けてきた蔦は、この冬、爆睡している間にリフレッシュ手術と、2度の引っ越しを経験しました。春にふと目覚めたときには、あたりの様子の変貌ぶりに、さぞ慌てたことでしょう。それでも、美装化された環境の中で体調はめきめき快方に向かい、今や存分に手足を伸ばして、順調にリハビリ期間を過ごしています。3年ほど経って、太い幹がしっかりと壁に貼りついたころには、麻ひももボロリと落ち、晴れて抜糸も完了です。

※「美しい日本探訪のための文化財建造物魅力向上促進事業」
文部科学省(担当:文化庁)が行なう補助事業。
重要文化財(建造物)・登録有形文化財(建造物)の壁や屋根等の外観及び公開範囲の仕上げに関わる部位を、健全で美しい状態に回復する所有者等の取り組みに対して支援(補助対象経費の50%)を行うことで、観光資源としての魅力向上に資することを目的とする。

未来へと受け継がれる 「糸車の幻想」

本町2丁目 堺筋・本町通交差点 map 12

堺筋と本町通の交差点に、2017年に新たに建てられた大阪商工信用金庫本店ビル。その本町通に面した外壁をみると、幅18m、高さ12mの巨大なレリーフが目に入ります。



水盤にうつる「糸車の幻想」

「いとへん」のまち船場を象徴する「糸車」

この場所には、もともと、1961年(昭和36)に業界大手の東洋紡が建設した「東洋紡本町ビル」が建っていました。その旧ビル建築時に、屋上を地域の憩いの場として開放しようという思いから、繊維産業のまち・船場のシンボルとしてつくられたのが、このレリーフでした。

この作品を手掛けたのは、アントニオ・ガウディに大きな影響を受けた建築家・今井兼次(1895~1987)。今井は、使われなくなった陶磁器のかけらを再利用したモザイク作品をいくつか制作しており、この手法を「フェニックス・モザイク」と名付けていました。本作品は大阪の「再生~永遠の力強さ」への願いが込められており、皇居の音楽堂「桃華楽堂」や長崎の日本二十六聖人記念館のモザイク作品と並ぶ、今井の代表作といわれています。



旧ビルの屋上からレリーフが顔を出していた

まちの財産として、未来へ継承を

レリーフが制作されてから半世紀余り。状態もあまりよくなく、旧ビル解体時には廃棄される可能性もあったそうですが、新ビルの設計を手掛けた建築家・安藤忠雄さんに調べてもらったところ、文化財として価値のある作品であることが判明。そこで、まちの財産として後世に伝えるべく、「糸車の幻想」を再生保存して多くの方に見てもらえるような空間づくりが行われました。

レリーフは本町通に面した北側の外壁に設置されており、階段を上って、目の前まで近づいてみる事ができます。今井兼次の作品は、共通してどこかに牛が隠れているそうです。このレリーフではどこに隠れているか、ぜひ探してみてください。

また、旧ビルの1階壁面には、彫作家・植木茂の石彫レリーフもあしらわれていましたが、こちらも堺筋に面した外壁と駐車場に保存されています。



東側外壁に保存された石彫モチーフ



2階ホール前に再生保存されたレリーフ

東高西低？船場センタービルで分かる土地の高低差

船場地区のほぼ中央を横切るように建てられた船場センタービル。地下鉄、ビル、高速道路が一体となった、東西約1kmにおよぶ非常にユニークな建造物です。ビル内には繊維関係の問屋や、飲食店さらには事務所などがあり、連日多くの人々で賑わっています。

船場センタービルの構造にかくれた不思議

船場センタービルは阪神高速道路下にあり、1号館から10号館までの各ビルは南北に走る筋ごとに区切られています。普段、何気なく歩いていると気にならないかもしれませんが、南北に走る筋の東と西に建つ船場センタービルの足もとを見てみてください。東側のビルには階段があるのに、西側のビルにはありません。例えば、三休橋筋に立って6号館と7号館を見比べると、筋の東側にある6号館は歩道に階段がありますが、西側の7号館には階段がありません。ビルによって階段の数は違いますが、どのビルの間もそのようなつくりになっています。これは、船場全体が東から西に向けて傾斜しているからなのです。



船場センタービル外観 3号館から西を望む



船場センタービルの南側に沿って西方向に歩いてみました1号館から出発です



中橋筋から見た5号館と6号館5号館側に階段が3段

三休橋筋に面した6号館階段は3段



船場センタービル10号館の西端南北の通りである渡辺筋に面した3段の階段の高さは約40cm

棟と棟のつながり目からも分かる、東高西低

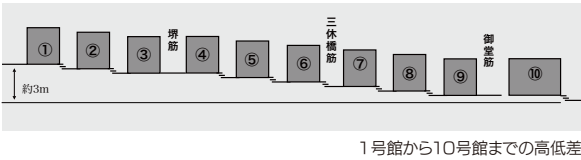
船場センタービル内でも、建物の継ぎ目で高低差を確認できます。4号館から9号館までは2階も店舗があるので、ビルの連絡箇所注目しながら東から西へ歩いてみると、4号館から5号館への連絡箇所、5号館から6号館への連絡箇所・・・といった、それぞれの連絡箇所東から西に降りる階段とスロープがあります。メジャーで計測すると段差は20cm位のところもあれば、35cmくらいの所もあります。階段の高さは連絡場所によって多少違っているようです。



4号館、5号館の連絡部分

建設当時の図面から土地の高低差を計算

ビルの建つ土地の正確な高低差となると、やはり建設当時の資料が必要です。船場センタービル内にある(株)大阪市開発公社で、図面を見せていただきました。図面に記された各号館の高さを抜き出して計算すると、1号館から9号館までの高低差は、約2.6mであることが分かりました。10号館の建つ土地の高低差は分かりませんでしたが、編集部で10号館西端の階段の高さを計測すると約40cm。合計すると、船場センタービルの建つ東から西まで1km近くに及ぶ土地の高低差は約3mあるようです。



1号館から10号館までの高低差

高低差を活用したインフラが、江戸時代からあった

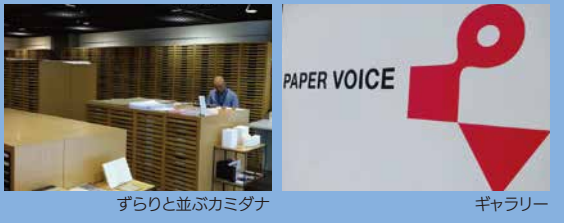
船場の土地の高低差と関連しているものの1つに「背割り下水」があります。背割り下水は、太閤路水とも呼ばれ、豊臣秀吉の号令のもと船場の街が整備されたときにつくられ、背中合わせになった家々の裏側を通っていた下水路です。船場地区内に張り巡らされた水路を通して各家から出る生活排水は、緩やかな斜面に従って自然と西長堀川に流れていったのです。

参考文献 | 大阪人2004年6月号

船場のカミサマ

南船場2丁目 map 17

かつて船場・谷町界隈には紙を専門に扱う1次問屋、2次問屋と呼ばれる紙問屋が多くありました。今では、ギャラリー「ペーパーボイス」を併設した南船場に唯一のこのカミ問屋には、カミダナ（紙棚）がずらりと並んでいます。ギャラリーではエコロジーから紙文化の創造まで、ユニークな企画を発信。2017年のアート展企画のコピーの1つは「そしてカミは死んだ!？」(平和紙業(株))



ずらりと並ぶカミダナ

ギャラリー

船場は奥が深〜い

引き込まれる建物内路地

南本町3丁目界隈 map 13

この建物には、2階部分に看板とも、給水塔ともつかぬ不思議なものがありますが、一見普通のお店。しかし表通りから建物の真ん中にある細長い路地を入ると、奥にぐんぐん伸びており、その両側にお店が並んでいます。でも今は殆どシャッター通り。奥になにやら怪しげな一杯飲み屋が昼間から店を出しています。夜ともなると、この細長い路地は客でいっぱいになる、摩訶不思議なお店です。その奥にもお店があったようですが、今は行き止まりになっていました。この界隈には、このスタイルの店がまだ幾つ残り、中央の路地を進むとクランクして裏の建物に続き、1つ隣の通りに出る近道になっています。かつての繊維・衣料雑貨の小問屋が並んで商売していた昔なつかしい店の名残ります。隣りにも同じような造り(1つの建物の真ん中通路で両側割割の店舗スタイル)の建物があって、エスニック料理屋にコンバージョンされていましたが最近なくなりました。これも時代の流れでしょうか。



奥まで小さなお店が並ぶ

奥行きは使いやすい

船場の敷地は、間口4間×奥行20間、80坪が標準。間口は小さくても南北敷地が繋がると、40間と奥が深〜い。船場は通りを挟んで店が両側に並び、それで1つの町会になる「両側町」と呼ばれました。それを真似た訳でもないでしょうが、建物の中までがミニ両側店になっています。そして、新たに奥行きの深さを逆手に取り、あえて京風路地型の雰囲気を活かして客を奥に導く、町家小路スタイルの飲食店が人気を呼んでいます。路地に面して並んだ小粋な小料理屋。入口にはなぜか柳の木。こうした間口が狭く奥の深〜い土地の利用は難しく、パブル以降は歯抜けのように駐車場に暫定利用されてきました。そこでまちの雰囲気を壊さず、あえて路地風お店にする土地活用は、駐車場より収益もよいとかで、このシリーズが船場平野町・淡路町などに幾つかお目見えしています。今夜一献いかが。



船場ROJINO map 7

地番が「渡辺」さん？

由緒ある神社に、名字入りの住居表示

坐摩神社 map 15

大阪メトロ本町駅のほど近く、旧西横堀川の東側にある坐摩神社の四隅には、表示の一番下に「渡辺」と記された表示板があります。通常なら地番に該当する箇所がお隣の住宅の表札と同じ名字になっています。ちょっと変わった表示について、坐摩神社の渡邊宮司にお話を伺いました。



渡邊宮司と住居表示境内だけで東区渡辺町を形成していました。「渡辺町」の例を参考に日本各地で元の地名を残す運動が起こり成功したところもあります」

大阪市の合区から生まれた地番

1989年(平成1)までは、坐摩神社のほぼ境内だけで東区渡辺町を形成していました。「渡辺町」の例を参考に日本各地で元の地名を残す運動が起こり、称変更に。それに伴い渡辺町は周辺地区と統合され「久太郎町」へと町名も変更することになりました。そのままでは、渡辺町の名がなくなってしまう。危機感をもった先代宮司が市議会など多方面に働きかけ、番地として渡辺の名が残りました。このときに動いたのが、船場の氏子さんたちを始め神社関係者や有識者、そして全国の渡辺姓の人たちの集まりである「全国渡辺会」の方々だったのです。通常なら消えてしまう町名が残ったのは、実は「坐摩神社が全国の渡辺・渡部姓の発祥の地」であり、「渡辺」が由緒ある姓という特別な事情があったからです。



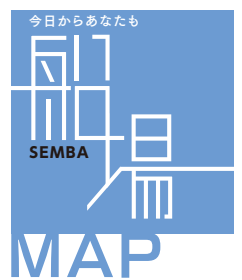
坐摩神社。愛称は「ざまさん」

渡辺姓の発祥は、天満橋八軒家通り

「渡辺」は、もとは中央区天満橋付近の地名。渡辺とは「渡しの辺り」のことで、旧淀川の天満橋付近、八軒家周辺の地名を表していました。平安期にこの地に定住した人たちが「渡辺」姓を名乗るようになったといえます。その中でも有名なのが嵯峨源氏の子孫、渡辺綱で、源頼光に仕えた四天王の1人として知られています。坐摩神社はもともと天満橋の西方、現在の八軒家通りにあり、渡邊宮司の先祖も平安期までに渡邊姓を名乗るようになったとのこと。その後、豊臣秀吉による大坂城築城の際に替え地を命じられ、渡辺の地名とともに現在の地に移転しました。



合区前の地図に残る「渡辺町」 1982年頃の住宅地図より



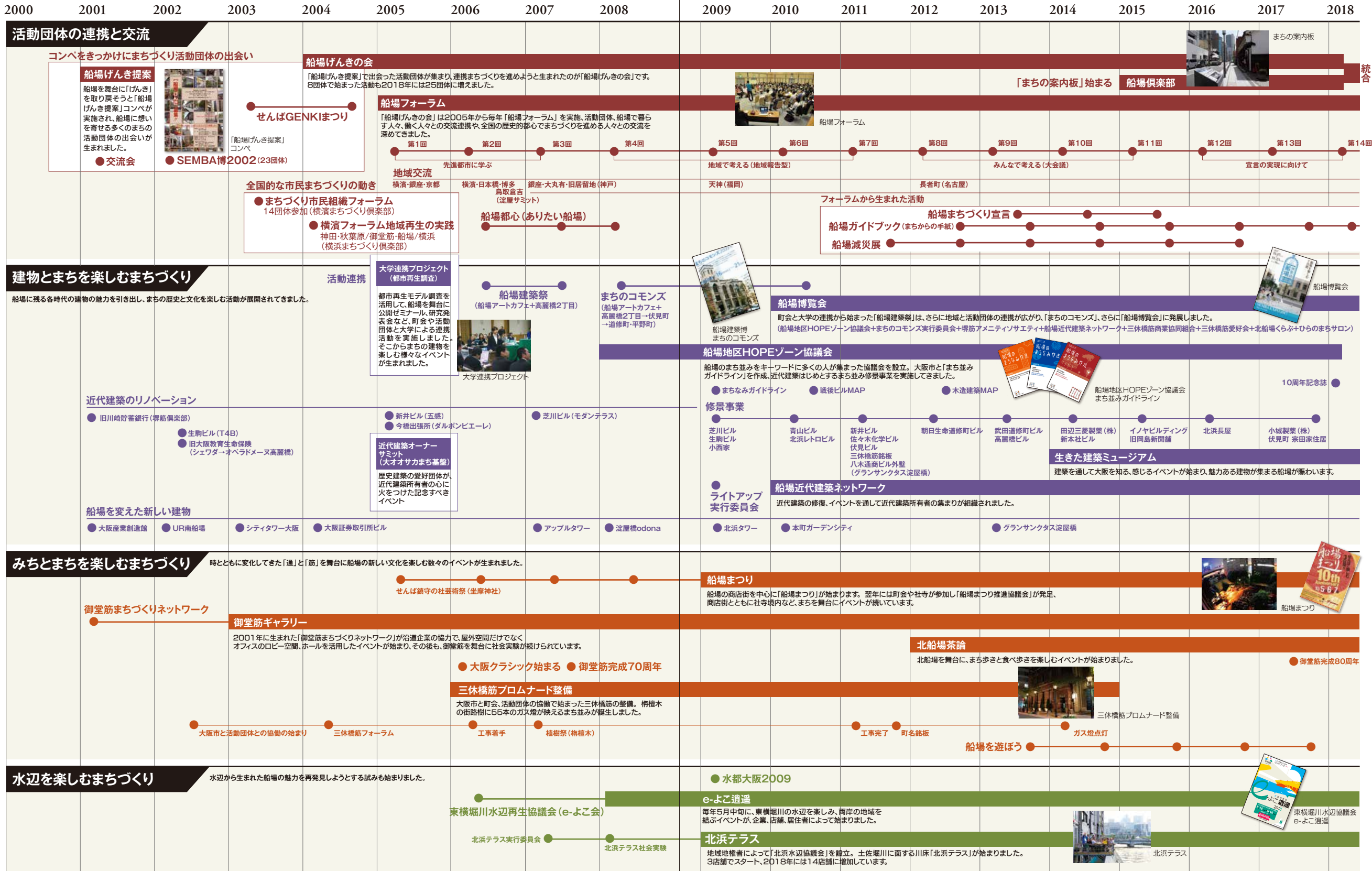
A map of the Osaka area showing the location of the shipyard (船場). The map includes major roads like the Nishikasa Expressway (Nishikasa Expressway), the Nishikasa Expressway (Nishikasa Expressway), and the Nishikasa Expressway (Nishikasa Expressway). It also shows the location of the shipyard (船場) relative to other landmarks like the Osaka City Hall (大阪市役所) and the Osaka City Hall (大阪市役所). The map is oriented with North (N) at the top.

- 1 三井住友銀行大阪本店ビル
- 2 石原ビルディング
- 3 三共商事
- 4 吉田理容所
- 5 北浜レトロビルヂング
- 6 大阪倶楽部
- 7 日本生命保険相互会社 本館
- 8 大阪市立愛珠幼稚園
- 9 適塾
- 10 中村健法律事務所
- 11 新井ビル
- 12 岡三証券
- 13 今橋ビルヂング
(旧中央消防署今橋出張所)
- 14 高麗橋野村ビルディング
- 15 三井住友銀行大阪中央支店
- 16 オペラ・ドメーヌ高麗橋
(旧大阪教育生命保険ビル)
- 17 日本基督教団浪花教会
- 18 銭高組分室(旧小西平兵衛邸)
- 19 芝川ビル
- 20 伏見ビル
- 21 青山ビル
- 22 少彦名神社
- 23 コニシ株式会社(旧小西儀助商店)
- 24 大阪ガスビル
- 25 北野家住宅
- 26 武田道修町ビル
- 27 小川香料
- 28 生駒ビルヂング
- 29 三栄源エフエフアイ
- 30 清水猛商店
- 31 船場ビルディング
- 32 興和淡心ビル(旧板谷齒科医院)
- 33 岸本瓦町邸
- 34 綿業会館
- 35 ハウザー堺筋本町駅前ビル
- 36 明治屋ビル
- 37 三木楽器開成館
- 38 クツフ文具店
- 39 堺筋倶楽部
(旧川崎貯蓄銀行大阪支店)
- 40 大阪農林会館
- 41 原田産業

船場まちづくりの歩み

船場の15年

船場のまちは、「シャッター通り」「駐車場通り」などといわれた一時期もありました。そのような時でも、まちに想いをもつ人たちの確かな活動がありました。そして、まちに暮らす人々、働く人々、訪れる人々が取り組んできたまちづくり活動が連携し、さらに新たな活動を生み出し、まちの魅力と賑わいを生み出してきました。





協賛広告

船場ガイドブック2018に
協賛いただきました
お店と企業です。

Bar d'Arome

バー・ダローム

細い通路の奥にある小さなBar
カクテルとワインを中心に洋酒全般を
取り揃えております。

営業時間 平日16時～翌1時
定休日 水曜
電話 06-4706-0101
住所 中央区北浜3-3-14



彩食館 門

創業60年を機に、昭和の門と現代をコラボし、
10月1日にリニューアルオープン。
昼も夜もリーズナブルなお値段もそのまま。
先代の残した大阪言葉の絵巻も展示しており
ます。

営業時間 11時～14時半／17時～23時
土曜は貸切予約のみ
日祝休
電話 06-6231-8509
住所 中央区道修町3-3-12



(株)シモジマ心斎橋店

包装資材や店舗用品、事務用品を卸価格で
販売しております。さらに2%引きになる
カードを無料で受付け中!!

営業時間 平日 9時半～19時半
日祝 10時～18時20分
定休日 不定休
電話 06-6252-4361
住所 中央区北久宝寺町3-3-8



三木楽器株式会社

KAISEIKAN
開成館

1825年の創業以来、日本の音楽産業・音楽文化の発展を支えて参りました。
アコースティックピアノ楽譜を取り揃え、
ミュージック・エクセレント・カンパニーの道を
歩み続けます。

営業時間 10時～19時
毎週水曜日休
電話 06-6252-1820
住所 北久宝寺町3-3-4

国登録有形文化財



創業1888年 池田商店紳士服部 本町店

創業130周年を迎えた老舗の技術を 生かし、最新のスタイ
リングのスーツをお求めやすい価格でご提供しております。
特別価格 国産生地使用仕上り 5万円～
舶来生地使用仕上り 7万円～
営業時間 月～金 10時～18時 土 10時～15時
日祝日・第2、第3土曜休 電話 06-6252-7758
住所 中央区久太郎町4-1-3
大阪センタービルB1 (旧伊藤忠ビルB1)



デザイン、アイデア、住まい方。

個性的な“家”の提案が、ここにあります。



大阪ガス住設の家
ogj.co.jp/house/

大阪ガス住宅設備株式会社
豊中モデルハウス
営業時間 10時～17時 定休日/火曜・水曜
電話 06-4865-9730
住所 豊中市北緑丘1丁目1-10

THE KAITEKI COMPANY

三菱ケミカルホールディングスグループ



田辺三菱製薬

この手で、未来を。

www.mt-pharma.co.jp

Cacaotier Gokan

Chocolat et Glace

カカオティエゴカン

大阪市中央区高麗橋2-6-9 TEL. 06-6227-8131

応援します。お気軽にご相談ください。

信頼で地域とつながる
Osaka City 大阪シティ信用金庫

本店/〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-4
TEL. (06) 6201-2881 (代表)
http://www.osaka-city-shinkin.co.jp/

大阪府内に90店舗。大阪市内全24区に店舗を有する唯一の地域金融機関です。
平成30年10月1日現在

The Heritage and Vantage 御堂筋



南館竣工当時 1933年(昭和8年)



御堂筋清掃活動 1940年代～



ガスビルコンサート 1980年代～



ガスビル食堂 1933年～



御堂筋ふれあいバザー 1990年代～



御堂筋イルミネーション 2009年～



北館竣工 1966年(昭和41年)

これからも船場・御堂筋のまちづくりに貢献してまいります。 大阪ガス

伊藤園

自然が好きです。

株式会社伊藤園 大阪中央支店
大阪市港区波除1-4-43 06-6585-6850



大阪のまん中 堺筋本町から
大阪商工信用金庫はいま新たなステージへ

Shoko 大阪商工信用金庫
〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目2番8号
本部 TEL. 06-6267-1636 (代表)
http://www.osaka-shoko.co.jp/

船場倶楽部の活動

船場倶楽部は、地域連合振興町会、商業団体、神社・寺院、法人企業、そして地域まちづくり団体などの様々な人たちが参加して生まれました。

船場のまちは、大阪の歴史的都心として、長く人びとの暮らしとビジネス、そして文化を育き繁栄と衰退の歴史を経て現代に引き継がれてきました。

しかし近年、人口減少、少子高齢化、さらに国際化が進む中で、都心にも新しい姿が求められています。そこで、私たちはその歴史・文化を引き継ぎ、未来に向けて人びとの暮らしやビジネス・文化を磨き魅力ある船場の姿を求めてまちづくりを進めていきます。

設立：2018年6月7日

会員：正会員（地域連合振興町会、商店街、まちづくり団体、法人企業）56名

賛助会員（法人、個人）28名（2018年8月末現在）

船場倶楽部 事務局

〒541-0047 大阪市中央区淡路町2丁目4-7-904 info@sembaclub.com

www.sembaclub.com



船場フォーラム

船場について語り合う場として2005年から毎年3月に開催しています。

船場アーカイブス

船場の写真・地図など募集中

写真や地図などの、船場に残る"昔の記憶"を収集・保存、公開しています。



船場アーカイブス

船場まつり

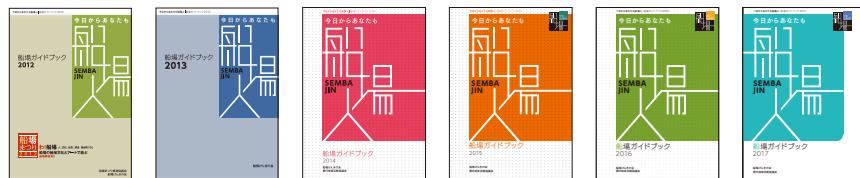
船場の商店街、神社・寺院、連合振興町会を中心に2009年から毎年10月に開催しています。

船場博覧会

2006年に町会と大学の連携が始まった「船場建築祭」が地域と活動団体の参加に広がり、毎年11月に開催しています。

船場ガイドブック

2012年から毎年秋に発行し、イベント会場や船場の飲食店などで配布しています。



2012年 第1号
テーマ
「船場アミュージアム」

2013年 第2号
テーマ
「船場今昔」

2014年 第3号
テーマ
「船場のここ10年」

2015年 第4号
テーマ
「船場に息づく芸能・文学」

2016年 第5号
テーマ
「船場の会館」

2017年 第6号
テーマ
「船場の緑」

船場倶楽部設立の経過

大阪市は、2015年から「まちの案内板」の設置を進めてきました。

その盤面制作と維持管理の協力を契機に

「地域連合振興町会」「船場地区HOPEゾーン協議会」「船場げんきの会」が発起人となり2015年9月11日に船場倶楽部が発足しました。

2017年度末に「船場地区HOPEゾーン協議会」が解散したことを契機に

その事業趣意を継承するとともに

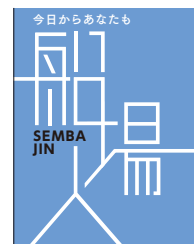
「船場げんきの会」と「船場倶楽部」を統合して

船場で活動する団体が一堂に会する新しい体制の「船場倶楽部」が発足しました。



案内板除幕式の様子

今日からあなたも船場人 船場ガイドブック 2018



制作：

船場倶楽部

愛日地域活動協議会

*本号より、船場ガイドブックの制作は「船場げんきの会」から「船場倶楽部」に変わりました。

編集会議：

青木由美子

川崎みほ子

河村岳志

谷口康彦

千葉桂司

日比哲夫

三谷直子

米田佳代

デザイン：

河村岳志 takeshikawamura.com

「船場の不思議」取材に協力いただいた方：

山本武志(塩野義製薬(株))

刈田 豊(大日本住友製菓(株))

園 文夫(御霊神社)

藤井英樹(中井エンジニアリング(株))

吉田 準(中井エンジニアリング(株))

中垣敏夫(日本精工硝子(株))

小西智香(日本精工硝子(株))

青山修司(大阪住宅(株))

青山正美(大阪住宅(株))

青山敬子(大阪住宅(株))

今津浩和(大阪商工信用金庫)

尾崎彰廣(神宗(株))

高岡伸一(近畿大学)

渡邊紘一(坐摩神社)

前田葉子(三和住宅(株))

大住元人(平和紙業(株))

(株)大阪市開発公社



船場倶楽部
SEMBA CLUB

この船場ガイドブック2018の制作にあたり船場倶楽部が公益財団法人 東教育財団の地域文化事業助成愛日地域活動協議会が大阪市中央区地域振興活動補助金を受けています。